

要約

3歳女児の症例報告が詳細に記載されています。肝逸脱酵素 (transaminase) は 3000IU/L 以上を呈し、黄疸と高アンモニア血症、PTINR(1.3)の延長など急性肝不全の病態を呈し、入院後 13 日目に生体肝移植を受けています。その摘出された肝臓の組織所見で広範な肝細胞の脱落が認められています。

これだけ明確に臨床所見や組織所見が記載されている報告は初めてで、アデノウイルスの直接的な肝炎でなく、二次的な免疫応答が要因と考えられる臨床像は極めて興味深い症例でした。2022年スコットランドで原因不明の小児急性肝炎が 10 例 WHO に報告されてからアデノウイルスに起因する急性肝不全と考えられ、英国と米国にそれぞれ 200 例以上の症例が報告されていますが、その詳細はまだ不明な点が多いようです。670 例中ほとんどが 5 歳以下の小児で 20 例に肝移植が施行され、10 例前後の死亡例があるとされていますが、わが国での実態は不明であります。今のところ、この疾患の定義は除外診断だけで、果たしてアデノウイルスに関連しているのか、それとも他の要因か、あるいは新型コロナウイルスに関与した病態なのか不明な点が多く、まだ謎に包まれているようです。

メディアの情報だけで一喜一憂する状況下で、このような英国の現地からの報告は極めて有意義で、是非ともわがくにの肝臓専門医、小児専門医に一読願ひ、今後の臨床に役立てていただきたい。

文責

当財団理事長 市田隆文